

OSSTech Samba 3.2

インストールガイド 第 2.8 版



OSSTech

Copyright © 2010 オープンソース・ソリューション・テクノロジー(株)

作成日: 2008 年 11 月 10 日

更新日: 2010 年 07 月 14 日

リビジョン: 2.8

目次

1. はじめに	1
1.1 本書の目的.....	1
1.2 前提条件.....	1
1.3 略語.....	1
2. Linux 版 Samba パッケージ	2
2.1 システム要件.....	2
2.1.1 ソフトウェア要件.....	2
2.1.2 ハードウェア要件.....	2
2.2 パッケージ構成.....	2
2.3 Linux 版パッケージのインストール.....	3
2.3.1 準備.....	3
2.3.2 Samba パッケージのインストール.....	3
2.4 Linux 版パッケージのアップデート.....	4
2.4.1 バックアップの取得.....	4
2.4.2 準備.....	4
2.4.3 Samba パッケージのアップデート.....	5
3. Solaris 版 Samba パッケージ	7
3.1 システム要件.....	7
3.1.1 ソフトウェア要件.....	7
3.1.2 ハードウェア要件.....	7
3.2 パッケージ構成.....	7
3.3 Solaris 版パッケージのインストール.....	10
3.3.1 準備.....	10
3.3.2 Solaris 10 OS パッチの適用.....	10
3.3.3 RPM 環境のインストール.....	11
3.3.4 パッケージのインストール.....	11
3.4 Solaris 版パッケージのアップデート.....	11
3.4.1 バックアップの取得.....	11
3.4.2 準備.....	11
3.4.3 Samba パッケージのアップデート.....	12
4. AIX 版 Samba パッケージ	14
4.1 システム要件.....	14
4.1.1 ソフトウェア要件.....	14
4.1.2 ハードウェア要件.....	14

4.2 パッケージ構成.....	14
4.3 パッケージのインストール.....	16
4.3.1 準備.....	16
4.3.2 RPM 環境のインストール.....	16
4.3.3 Samba パッケージのインストール.....	16
5. Samba のファイル構成	17
5.1 コマンド、各種設定ファイルの配置.....	17
5.2 Samba サービスの制御.....	18
5.3 Samba サービスの自動起動の設定.....	19
5.4 オンラインマニュアルの参照.....	19
6. 注意事項	20
6.1 ファイル変更通知機能の設定 (Linux .2.6.13+ 以外).....	20
6.2 ショートファイル名生成機能の無効化.....	20
6.3 NFSv4 ACL の設定 (Solaris).....	20
6.4 ブート時のサービス自動起動と設定アシスタント (AIX).....	21
7. 改版履歴	22

1. はじめに

1.1 本書の目的

本文書は、弊社提供の Samba ソフトウェアパッケージのインストールを実施するための手順書です。Samba のインストールやアップデートの際には、必ず本文書の内容を確認してから作業を実施してください。

本文書に関する記載内容について疑問点等がある場合には、弊社サポート窓口までお問い合わせください。

1.2 前提条件

本書は、特に指示がない限り、以下のような条件を前提に記述しています。これと異なる場合は、適宜内容を読み替えるか、必要な作業を別途実施してください。

- 作業者が OS と関連ソフトウェアの管理や操作手順についての一般的な知識を有すること。
- OS と関連ソフトウェアの基本設定が適切になされていること。
- OS のセキュア OS 機能 (SELinux 等) やファイアウォール機能を無効にすること。
- 管理ユーザー root のシェル端末で作業すること。(作業ユーザーを指定している場合を除く)
- OSSTech 製品パッケージファイル群をインストール対象 OS 環境の `/srv/osstech/software/RPMS` ディレクトリ以下にコピーしておくこと。

1.3 略語

本書では必要に応じて以下のような略語を用います。

- 「Red Hat Enterprise Linux」を「RHEL」と表記します。
- 「オープンソース・ソリューション・テクノロジー」を「OSSTech」と表記します。

2. Linux 版 Samba パッケージ

2.1 システム要件

2.1.1 ソフトウェア要件

以下のいずれかの OS 環境が必要です。

- RedHat Enterprise Linux 5 / CentOS 5 (x86, x86-64)
- RedHat Enterprise Linux 4 / CentOS 4 (x86, x86-64)

2.1.2 ハードウェア要件

ソフトウェア要件に記載の OS が動作する以下のハードウェア環境が必要です。

CPU:	Intel Pentium III 1GHz 以上あるいは互換 CPU
メモリ:	512MB 以上 (1GB 以上推奨。クライアント数等に依存)
ディスク:	ソフトウェア: /opt/osstech 1GB 以上 データ、ログ: /var/opt/osstech 1GB 以上(推奨)

2.2 パッケージ構成

弊社提供の Samba パッケージは、以下のパッケージより構成されています。

- OSSTech ソフトウェア製品基本パッケージ
 - osstech-base
 - osstech-support
 - osstech-daemontools
- Samba 関連パッケージ
 - osstech-samba
 - osstech-samba-client
 - osstech-samba-common
 - osstech-samba-doc
 - osstech-samba-domainjoin-gui
 - osstech-samba-swat

- osstech-samba-winbind
- osstech-libsmbclient
- osstech-libsmbclient-devel
- osstech-libtalloc
- osstech-libtalloc-devel
- osstech-libtdb
- osstech-libtdb-devel
- osstech-libwbclient
- osstech-libwbclient-devel
- osstech-tdb-tools
- osstech-libiconv
- osstech-libiconv-devel
- osstech-gamin (RHEL4/CentOS4 のみ)
- osstech-gamin-devel (RHEL4/CentOS4 のみ)
- smbldap-tools 関連パッケージ(Samba - LDAP 連携をご利用の場合のみ)
 - osstech-smbldap-tools
 - perl-Crypt-SmbHash

2.3 Linux 版パッケージのインストール

各パッケージのインストールは、OS 付属の rpm コマンドを用いて行います。以下の手順にしたがってパッケージのインストールを実施してください。

2.3.1 準備

パッケージのインストールは、root ユーザーのみに許可されていますので、最初に su コマンドで root ユーザーになります。

```
$ su -  
Password: root のパスワードを入力 (画面には表示されません)
```

次に弊社から提供されたパッケージ一式をインストール先ホストの任意のディレクトリに展開します。下記の例では/srv/osstech/software/RPMS に展開したことを前提として記述します。

|| 2.3.2 Samba パッケージのインストール

/srv/osstech/software/RPMS に弊社提供の Samba パッケージ一式があることを確認します。

```
# cd /srv/osstech/software/RPMS
# ls_base
osstech-base-2.0.0-37.el5.noarch.rpm
osstech-daemontools-0.76-30.el5.i386.rpm
...
# ls_samba
osstech-libiconv-1.10-13.el5.i386.rpm
osstech-libiconv-devel-1.10-13.el5.i386.rpm
osstech-libsmbclient-3.2.15-0.22.53.el5.i386.rpm
osstech-libsmbclient-devel-3.2.15-0.22.53.el5.i386.rpm
...
```

rpm コマンドで弊社提供の Samba パッケージ一式をインストールします。

```
# /bin/rpm -iv base/*.rpm
# /bin/rpm -iv samba/*.rpm
```

Samba - LDAP 連携を利用の場合は、上記に加えて smbldap-tools パッケージ一式もインストールしてください。

```
# /bin/rpm -iv smbldap-tools/*.rpm
```

以上でインストールは完了です。

2.4 Linux 版パッケージのアップデート

セキュリティ修正などによって、弊社提供の Samba パッケージ一式をアップデートする際は、次の手順で実施してください。

|| 2.4.1 バックアップの取得

パッケージのアップデート前に、各種設定ファイル、および Samba のキャッシュファイルのバックアップを取得しておきます。

一般的な構成の場合、下記のディレクトリのバックアップを実施してください。

ディレクトリ	ディレクトリに含まれるデータ
/opt/osstech/etc/samba	Samba の設定ファイル一式
/opt/osstech/var/lib/samba	Samba のキャッシュファイルなど

|| 2.4.2 準備

パッケージのインストールは、root ユーザーのみに許可されていますので、最初に su コマンドで root ユーザーになります。

```
$ su -  
Password: root のパスワードを入力 (画面には表示されません)
```

次に弊社から提供されたパッケージ一式をインストール先ホストの任意のディレクトリに展開します。下記の例では/srv/osstech/software/RPMS に展開したことを前提として記述します。

|| 2.4.3 Samba パッケージのアップデート

/srv/osstech/software/RPMS に弊社提供の Samba パッケージ一式があることを確認します。

```
# cd /srv/osstech/software/RPMS  
# ls_base  
osstech-base-3.0-51.el5.noarch.rpm  
osstech-daemontools-0.76-36.el5.i386.rpm  
...  
# ls_samba  
osstech-libiconv-1.10-13.el5.i386.rpm  
osstech-libiconv-devel-1.10-13.el5.i386.rpm  
osstech-libsmbclient-3.2.15-0.22.76.el5.i386.rpm  
osstech-libsmbclient-devel-3.2.15-0.22.76.el5.i386.rpm  
...
```

最初に base ディレクトリに含まれるパッケージ一式のアップデートを rpm コマンドで行います。

```
# /bin/rpm -Uhv base/*.rpm
```

既に最新のパッケージがインストール済みの場合、次のエラーが表示されます。この場合はインストール済みのパッケージをアップデートする必要はありませんので、アップデート不要なパッケージを、ディレクトリから除いておき、再度、アップデートを試みます。

```
# /bin/rpm -Uhv base/*.rpm  
準備中...##### [100%]  
パッケージ osstech-base-3.0-51.el5 は既にインストールされています。  
パッケージ osstech-support-3.0-51.el5 は既にインストールされています。
```

上記の例の場合、osstech-base パッケージと osstech-support パッケージのアップデートが不要なことを表しています。

続いて、rpm コマンドで弊社提供の Samba パッケージ一式をインストールします。

```
# /bin/rpm -Uhv samba/*.rpm
```

また、システムに開発用の devel パッケージもインストール済みの場合は、次のように devel パッケージも一緒に指定して、Samba パッケージをアップデートします。

```
# /bin/rpm -Uhv samba/*.rpm samba/devel/*.rpm
```

なお、Samba パッケージのアップデートにより、smbd、nmbd、winbindd はアップデート処理内において、自動的に再起動されます。

以上でインストールは完了です。

3. Solaris 版 Samba パッケージ

3.1 システム要件

3.1.1 ソフトウェア要件

以下のいずれかの OS 環境が必要です。

- Solaris 10 (SPARC)
- Solaris 10 (x86)

3.1.2 ハードウェア要件

ソフトウェア要件に記載の OS が動作する以下のハードウェア環境が必要です。

CPU:	Intel Pentium III 1GHz 以上あるいは互換 CPU
	Sun UltraSPARC II 1GHz 以上あるいは互換 CPU
メモリ:	512MB 以上 (1GB 以上推奨。クライアント数等に依存)
ディスク:	ソフトウェア: /opt/osstech 1GB 以上
	データ、ログ: /var/opt/osstech 1GB 以上(推奨)

3.2 パッケージ構成

弊社が提供する Solaris 版ソフトウェアは以下のパッケージにより構成されています。

- OSSTech ソフトウェア製品基本パッケージ
 - osstech-base
 - osstech-support
 - osstech-rpm
 - osstech-rpm-build
 - osstech-rpm-devel
 - osstech-rpm-libs
 - osstech-rpm-python
 - osstech-daemontools
 - osstech-logrotate

- osstech-cronie
- Samba 関連パッケージ
 - osstech-samba
 - osstech-samba-client
 - osstech-samba-common
 - osstech-samba-doc
 - osstech-samba-swat
 - osstech-samba-winbind
 - osstech-libsmbclient
 - osstech-libsmbclient-devel
 - osstech-libtalloc
 - osstech-libtalloc-devel
 - osstech-libtdb
 - osstech-libtdb-devel
 - osstech-libwbclient
 - osstech-libwbclient-devel
 - osstech-tdb-tools
 - osstech-libiconv
 - osstech-libiconv-devel
 - osstech-krb5-devel
 - osstech-krb5-libs
 - osstech-krb5-workstation
 - osstech-gamin
 - osstech-gamin-devel
- OpenLDAP ライブラリ関連パッケージ
 - osstech-openldap
 - osstech-openldap2.4-libs
- OpenLDAP サーバー/クライアント関連パッケージ (OpenLDAP サーバーをご利用の場合のみ)

- osstech-openldap-servers
- osstech-openldap-devel
- osstech-openldap-clients
- osstech-openldap-servers-perl
- osstech-openldap2.3-libs
- osstech-db4.5
- osstech-db4.5-devel
- osstech-db4.5-utils
- smbldap-tools 関連パッケージ(Samba - LDAP 連携をご利用の場合のみ)
 - osstech-perl-Compress-Raw-Zlib
 - osstech-perl-Compress-Zlib
 - osstech-perl-Convert-ASN1
 - osstech-perl-Crypt-SmbHash
 - osstech-perl-Data-Dump
 - osstech-perl-Digest-MD4
 - osstech-perl-Digest-SHA1
 - osstech-perl-HTML-Parser
 - osstech-perl-HTML-Tagset
 - osstech-perl-IO-Compress-Base
 - osstech-perl-IO-Compress-Zlib
 - osstech-perl-IO-Socket-SSL
 - osstech-perl-LDAP
 - osstech-perl-Net-SSLeay
 - osstech-perl-URI
 - osstech-perl-XML-NamespaceSupport
 - osstech-perl-XML-SAX
 - osstech-perl-libwww-perl
 - osstech-smbldap-tools

3.3 Solaris 版パッケージのインストール

各パッケージのインストールは、弊社提供の rpm コマンドを用いて行います。以下の手順にしたがってパッケージのインストールを実施してください。

|| 3.3.1 準備

パッケージのインストールは、root ユーザーのみに許可されていますので、最初に su コマンドで root ユーザーになります。

```
$ su -  
Password: root のパスワードを入力 (画面には表示されません)
```

次に弊社から提供されたパッケージ一式をインストール先ホストの任意のディレクトリに展開します。下記の例では/srv/osstech/software/RPMS に展開したことを前提として記述します。また、以下の説明では SPARC 版について述べていますが、x86 版の場合は、アーキテクチャとして「sparc」になっている箇所を「i386」に読み替えて、コマンドを実行してください。

|| 3.3.2 Solaris 10 OS パッチの適用

showrev コマンドで OS パッチ 121606-02 以降 (SPARC の場合)、または 121607-02 以降 (x86 の場合) がシステムに適用されていることを確認します。Solaris 10 Update 4 (8/07)以降には標準で適用済みであるため、不要です。

パッチの確認: SPARC の場合

```
# showrev -p | egrep 121606  
Patch: 121606-02 Obsoletes: Requires: Incompatibles: Packages: SUNWPython-share, SUNWPython,  
SUNWPython-devel
```

パッチの確認: x86 の場合

```
# showrev -p | egrep 121607  
Patch: 121607-02 Obsoletes: Requires: Incompatibles: Packages: SUNWPython-share, SUNWPython,  
SUNWPython-devel
```

2008 年 11 月現在、パッチの最新版は以下の URL から取得することが可能です。このパッチのダウンロードは、Sun Service Plan の契約ユーザーのみに限定されています。

- SPARC 用
 - 121606-04: GNOME 2.6.0: Python patch
<http://sunsolve.sun.com/search/document.do?assetkey=1-21-121606-04-1>
- x86 用
 - 121607-04: GNOME 2.6.0: Python patch
<http://sunsolve.sun.com/search/document.do?assetkey=1-21-121607-04-1>

ダウンロードしたパッチは次の手順で適用します。

```
# unzip -q 121607-04.zip
```

```
# /usr/sbin/patchadd 121607-04
```

3.3.3 RPM 環境のインストール

Samba 3.2 より、弊社提供の Solaris 版ソフトウェアパッケージは RPM での管理となります。まず RPM 環境をインストールします。

```
# cd /srv/osstech/software/RPMS  
# ./bootstrap/osstech-bootstrap.ksh ./bootstrap
```

3.3.4 パッケージのインストール

インストールされた rpm コマンドを使用して、Samba 並びにその他必要なパッケージをインストールします。

```
# /opt/osstech/bin/rpm -iv base/*.rpm  
# /opt/osstech/bin/rpm -iv samba/*.rpm  
# /opt/osstech/bin/rpm -iv smbldap-tools/*.rpm
```

以上でインストールは完了です。

3.4 Solaris 版パッケージのアップデート

セキュリティ修正などによって、弊社提供の Samba パッケージをアップデートする際は、次の手順で実施してください。

3.4.1 バックアップの取得

パッケージのアップデート前に、各種設定ファイル、および Samba のキャッシュファイルのバックアップを取得しておきます。

一般的な構成の場合、下記のディレクトリのバックアップを実施してください。

ディレクトリ	ディレクトリに含まれるデータ
/opt/osstech/etc/samba	Samba の設定ファイル一式
/opt/osstech/var/lib/samba	Samba のキャッシュファイルなど

3.4.2 準備

パッケージのインストールは、root ユーザーのみに許可されていますので、最初に su コマンドで root ユーザーになります。

```
$ su...
```

```
Password: root のパスワードを入力 (画面には表示されません)
```

次に弊社から提供されたパッケージをインストール先ホストの任意のディレクトリに展開します。下記の例では/srv/osstech/software/RPMS に展開したことを前提として記述します。

|| 3.4.3 Samba パッケージのアップデート

/srv/osstech/software/RPMS に弊社提供の Samba パッケージがあることを確認します。

```
# cd /srv/osstech/software/RPMS
# ls bootstrap
osstech-base-3.0-50.sol10.noarch.rpm
osstech-base-os-3.0-50.sol10.sparc.rpm
...
# ls base
osstech-cronie-1.2-1.7.sol10.sparc.rpm
osstech-daemontools-0.76-36.sol10.sparc.rpm
osstech-libtool-ltdl-2.2.6-4.sol10.sparc.rpm
osstech-logrotate-3.7.7-1.3.sol10.sparc.rpm
# ls samba
osstech-libiconv-1.10-13.sol10.sparc.rpm
osstech-libiconv-devel-1.10-13.sol10.sparc.rpm
osstech-libsmbclient-3.2.15-0.22.76.sol10.sparc.rpm
osstech-libsmbclient-devel-3.2.15-0.22.76.sol10.sparc.rpm
...
```

最初に bootstrap ディレクトリに含まれるパッケージのアップデートを rpm コマンドで行います。

```
# /opt/osstech/bin/rpm -Uhv bootstrap/*.rpm
```

既に最新のパッケージがインストール済みの場合、「package XXX already installed」のエラーが表示されます。この場合はインストール済みの最新パッケージをアップデートする必要はありませんので、アップデートが不要なパッケージを、対象ディレクトリから削除するなどして除いておき、再度、アップデートを試みます。

```
# /opt/osstech/bin/bin/rpm -Uhv bootstrap/*.rpm
Preparing...##### [100%]
.....package osstech-base-3.0-51.el5 is already installed.....
.....package osstech-support-3.0-51.el5 is already installed.....
```

上記の例の場合、osstech-base パッケージと osstech-support パッケージのアップデートが不要なことを表しています。

続いて base ディレクトリに含まれるパッケージのアップデートを rpm コマンドで行います。

```
# /opt/osstech/bin/rpm -Uhv base/*.rpm
```

続いて、rpm コマンドで弊社提供の Samba パッケージ一式をインストールします。

```
# /opt/osstech/bin/rpm -Uhv_samba/*.rpm
```

また、システムに開発用の devel パッケージもインストール済みの場合は、次のように devel パッケージも一緒に指定して、Samba パッケージをアップデートします。

```
# /opt/osstech/bin/rpm -Uhv_samba/*.rpm_samba/devel/*.rpm
```

なお、Samba パッケージのアップデートにより、smbd、nmbd、winbindd はアップデート処理内において、自動的に再起動されます。

以上でインストールは完了です。

4. AIX 版 Samba パッケージ

4.1 システム要件

4.1.1 ソフトウェア要件

以下のいずれかの OS 環境が必要です。

- AIX 6.1 (POWER)
- AIX 5.3 (POWER)

4.1.2 ハードウェア要件

ソフトウェア要件に記載の OS が動作する以下のハードウェア環境が必要です。

CPU:	IBM POWER 1GHz 以上あるいは互換 CPU
メモリ:	512MB 以上 (1GB 以上推奨。クライアント数等に依存)
ディスク:	ソフトウェア: /opt/osstech 1GB 以上 データ、ログ: /var/opt/osstech 1GB 以上(推奨)

4.2 パッケージ構成

弊社が提供する AIX 版 Samba パッケージは、以下のパッケージにより構成されています。

- OSSTech ソフトウェア製品基本パッケージ
 - osstech-base
 - osstech-support
 - osstech-rpm
 - osstech-rpm-build
 - osstech-rpm-devel
 - osstech-rpm-libs
 - osstech-popt
 - osstech-zlib
 - osstech-zsh
 - osstech-daemontools

- osstech-logrotate
- osstech-cronie
- osstech-gettext
- osstech-pkgconfig
- Samba 関連パッケージ
 - osstech-samba
 - osstech-samba-client
 - osstech-samba-common
 - osstech-samba-doc
 - osstech-libsmbclient
 - osstech-libsmbclient-devel
 - osstech-libtalloc
 - osstech-libtalloc-devel
 - osstech-libtdb
 - osstech-libtdb-devel
 - osstech-libwbclient
 - osstech-libwbclient-devel
 - osstech-tdb-tools
 - osstech-libiconv
 - osstech-libiconv-devel
 - osstech-krb5-devel
 - osstech-krb5-libs
 - osstech-krb5-workstation
 - osstech-openssl
 - osstech-openssl-devel
 - osstech-openssl-perl
 - osstech-gamin
 - osstech-gamin-devel
- OpenLDAP クライアント/ライブラリ関連パッケージ

- osstech-openldap
- osstech-openldap-clients
- osstech-openldap-devel
- osstech-openldap2.4-libs

4.3 パッケージのインストール

各パッケージのインストールは、弊社提供の rpm コマンドを用いて行います。以下の手順にしたがってパッケージのインストールを実施してください。

|| 4.3.1 準備

パッケージのインストールは、root ユーザーのみに許可されていますので、最初に su コマンドで root ユーザーになります。

```
$ su -  
Password: rootのパスワードを入力(画面には表示されません)
```

次に弊社から提供されたパッケージをインストール先ホストの任意のディレクトリに展開します。下記の例では/srv/osstech/software/RPMS に展開したことを前提として記述します。

|| 4.3.2 RPM 環境のインストール

弊社提供の AIX 版パッケージは RPM での管理となります。まず RPM 環境をインストールします。

```
# cd /srv/osstech/software/RPMS  
# ./bootstrap/osstech-bootstrap.ksh ./bootstrap
```

|| 4.3.3 Samba パッケージのインストール

インストールされた rpm コマンドを使用して、Samba 並びにその他必要なパッケージをインストールします。

```
# /opt/osstech/bin/rpm -iv base/*.rpm  
# /opt/osstech/bin/rpm -iv samba/*.rpm
```

以上でインストールは完了です。

5. Samba のファイル構成

5.1 コマンド、各種設定ファイルの配置

弊社提供の Samba パッケージは/opt/osstech ディレクトリ配下にインストールされます。各コマンドなどのパスについては、下記を参照してください。

- Samba の主要なコマンド類
 - /opt/osstech/bin/pdbedit
 - ユーザアカウント、マシンアカウントなどの管理
 - /opt/osstech/bin/net
 - Samba、およびリモート CIFS サーバの管理ツール
 - /opt/osstech/bin/smbpasswd
 - Samba に登録されたユーザのパスワード変更用ツール
 - /opt/osstech/bin/nmblookup
 - NetBIOS 名の問い合わせツール
 - /opt/osstech/bin/smbclient
 - SMB/CIFS サーバリソースにアクセスするクライアントツール
 - /opt/osstech/bin/testparm
 - smb.conf ファイルのパラメータチェック用コマンド
 - /opt/osstech/bin/wbinfo
 - Active Directory 連携機能利用時に、各種情報を取得するコマンド
- Samba の各種デーモン類
 - /opt/osstech/sbin/smbd
 - ファイルサーバ、ドメインコントローラ、プリントサーバ機能などを提供するデーモン
 - /opt/osstech/sbin/nmbd
 - NetBIOS ネームサービスを提供するデーモン
 - /opt/osstech/sbin/winbindd

- Active Directory 連携機能などのサービスを提供するデーモン
 - Samba の VFS モジュールディレクトリ
 - /opt/osstech/lib/samba/vfs
 - Samba の設定ファイル
 - /opt/osstech/etc/samba/smb.conf
 - Samba のキャッシュディレクトリ
 - /opt/osstech/var/lib/samba
 - Samba のログディレクトリ
 - /opt/osstech/var/log/samba
 - Active Directory 連携時の Kerberos 設定ファイル
 - /opt/osstech/etc/krb5.conf (Solaris, AIX)
 - /etc/krb5.conf (Linux)

smbldap-tools も/opt/osstech ディレクトリ配下にインストールされます。

- smbldap-tools の主要なコマンド類
 - /opt/osstech/sbin ディレクトリ
- smbldap-tools の設定ファイル
 - /opt/osstech/etc/smbldap-tools/smbldap.conf
 - /opt/osstech/etc/smbldap-tools/smbldap_bind.conf

5.2 Samba サービスの制御

Samba の各種サービスを提供する smbd、nmbd、および winbindd デーモンの制御スクリプトとして、/etc/init.d/osstech-smb、/etc/init.d/osstech-nmb および/etc/init.d/osstech-winbind を用意してあります。これらを直接呼び出すこともできますが、通常は下記例のように service コマンドをご利用ください。

smbd、nmbd を起動する場合は、次のコマンドを実行してください。

```
# /opt/osstech/sbin/service osstech-smb start
# /opt/osstech/sbin/service osstech-nmb start
```

smbd、nmbd を停止する場合は次のコマンドを実行してください。

```
# /opt/osstech/sbin/service osstech-smb stop
```

```
# /opt/osstech/sbin/service osstech-nmb stop
```

winbindd を起動する場合は、次のコマンドを実行してください。

```
# /opt/osstech/sbin/service osstech-winbind start
```

winbindd を停止する場合は、次のコマンドを実行してください。

```
# /opt/osstech/sbin/service osstech-winbind stop
```

smbd、nmbd、winbindd を再起動する場合は次のコマンドを実行してください。

```
# /opt/osstech/sbin/service osstech-smb restart
# /opt/osstech/sbin/service osstech-nmb restart
# /opt/osstech/sbin/service osstech-winbind restart
```

5.3 Samba サービスの自動起動の設定

OS のブートとシャットダウンに連動して自動的に各サービスが起動するようにする場合は、次のコマンドを実行してください。

```
# /opt/osstech/sbin/chkconfig osstech-smb on
# /opt/osstech/sbin/chkconfig osstech-nmb on
# /opt/osstech/sbin/chkconfig osstech-winbind on
```

自動起動を無効にする場合は、次のコマンドを実行してください。

```
# /opt/osstech/sbin/chkconfig osstech-smb off
# /opt/osstech/sbin/chkconfig osstech-nmb off
# /opt/osstech/sbin/chkconfig osstech-winbind off
```

5.4 オンラインマニュアルの参照

弊社パッケージ付属のオンラインマニュアルは /opt/osstech/share/man 以下にインストールされます。日本 Samba ユーザー会にて翻訳が行われた Samba 日本語オンラインマニュアルも同梱しています。

マニュアルを参照するには、次のコマンドを実行してください。

```
$ /opt/osstech/bin/osstech-man [コマンド名など]
```

例えば、Samba の設定ファイル smb.conf(5) のオンラインマニュアルを参照したい場合は、次のコマンドを実行してください。

```
$ /opt/osstech/bin/osstech-man smb.conf
```

6. 注意事項

6.1 ファイル変更通知機能の設定 (Linux .2.6.13+ 以外)

Solaris 10、AIX、RHEL 4、CentOS 4 上で Samba 3.2 のファイルサーバー機能を提供する場合、デフォルトの設定ではファイル変更通知機能 (change notify) が一部動作しないため、Samba 以外の別のサービス経由で作成・変更・削除されたファイルやフォルダの情報がクライアントに通知されません。Samba で共有しているフォルダ (ディレクトリ) を NFS や AFP 等の別のサービスでも利用する場合は、付属の Samba VFS モジュール notify_fam の設定が必要です。

smb.conf の [global] セクションあるいは任意の共有フォルダ定義セクションで以下の設定を行ってください。

/opt/osstech/etc/samba/smb.conf の任意のセクションに追加設定

```
[任意のセクション]
vfs objects = notify_fam
```

RHEL 5 / CentOS 5 以降は、Samba (smbd) 内蔵のファイル変更通知機能が動作するため、上記設定は不要です。Samba で共有しているフォルダを NFS や AFP 等の別のサービスでは利用しない場合も、上記設定は不要です。

6.2 ショートファイル名生成機能の無効化

現在の Samba は、通常ファイル名 (ロングファイル名) から古いクライアント用 (MS-DOS、Windows 95 など) の 8 + 3 形式のショートファイル名を生成する機能に問題があり、正常に動作しません。この機能を無効にするため、smb.conf の [global] セクションに以下の設定を行なってください。

/opt/osstech/etc/samba/smb.conf: [global] セクションに追加設定

```
[global]
mangled names = no
```

6.3 NFSv4 ACL の設定 (Solaris)

Solaris 10 で ZFS 上の領域を共有フォルダとして利用する場合は、まず、ZFS の aclinherit オプションを確認してください。

```
# /usr/sbin/zfs.get_aclinherit_ZFS名
```

この時下記のように passthrough となっていない場合には必ず passthrough に変更してから利用してください。(既定値は restricted)

```
ZFS名 aclinherit      passthrough      local
```

passthrough となっていない状態で ZFS 上の NFSv4 ACL 付きのファイルやディレクトリに対して、

Windows からアクセス権の確認 (エクスプローラーから[プロパティ]-[セキュリティ]) を実施すると所有者でもアクセスが出来ない ACL に変更されてしまう場合があります。

ZFS の `aclinherit` オプションを `passthrough` に変更するには下記を実行してください。

```
# /usr/sbin/zfs_set aclinherit=passthrough ZFS名
```

次に `smb.conf` の該当する共有定義セクションに以下の設定を行ってください。

/opt/osstech/etc/samba/smb.conf の任意のセクションに追加設定

```
[任意のセクション]
vfs objects = notify_fam zfsacl
nfs4: mode = special
nfs4: chown = yes
nfs4: acedup = merge
```

6.4 ブート時のサービス自動起動と設定アシスタント (AIX)

初期状態の AIX は、ブート時に AIX 付属の「設定アシスタント」が起動するように設定されています。設定アシスタントは `/etc/inittab` ファイルの以下のエントリによりランレベル 2 で起動されます。アクションが「wait」となっているため、設定アシスタントが終了するまでは、同じランレベル 2 で起動される OSSTech 製パッケージのサービスが自動起動しません。

/etc/inittab: 設定アシスタントの起動設定

```
install_assist:2:wait:/usr/sbin/install_assist </dev/console >/dev/console 2>&1
```

設定アシスタントの画面で次回以降に自動起動しないように設定するか、以下のように `/etc/inittab` の該当エントリをコメントアウト (行頭にコロン「:」を追加) してください。

/etc/inittab: 設定アシスタントの無効化

```
:install_assist:2:wait:/usr/sbin/install_assist </dev/console >/dev/console 2>&1
```

7. 改版履歴

- 2010-07-14 リビジョン 2.8
 - AIX 5.3 対応
- 2010-07-02 リビジョン 2.7
 - Linux、Solaris 版のパッケージアップデート手順を追加
- 2010-01-22 リビジョン 2.6
 - NFSv4 ACL (Solaris10 ZFS) を利用する際の注意点追加
- 2009-10-21 リビジョン 2.5
 - 最新版のバージョン、パッケージ構成に合わせて修正
- 2009-06-04 リビジョン 2.4
 - osstech-base-2.0.0-30 で osstech-man コマンドを追加したため、それに合わせてオンラインマニュアルに関する記述を変更。
 - 作業用ディレクトリを /work から /srv/osstech に変更。
- 2009-03-04 リビジョン 2.3
 - スタイルと書式設定を更新。
 - PDF 版で目次から各章へのリンクが機能しない問題を修正。
- 2009-02-23 リビジョン 2.2
 - notify_fam の設定が必要なのは、該当 OS であっても、Samba で共有しているディレクトリを別のサービスで利用していなければ不要であるため、その旨追記。
- 2009-02-13 リビジョン 2.1
 - AIX 6 対応
 - osstech-rpm-4.4.2.3-2.16 以降で libnss3 が不要になり、結果 Solaris 10: Patch-ID# 11921[34]-06 は不要になったので、記述を削除。
- 2008-12-26 リビジョン 2.0
 - Linux 版のインストール方法を記載
 - 日本語 man データの参照方法を記載



- 2008-11-10 リビジョン 1.0
 - 初版
 - Solaris 10 でのインストール方法を記載